岡崎市制100周年記念事業
岡崎まちものがたり

小園神明社

祭神：豊宇氣姫命（とようけひめのみこと）、天照大見神（あまてらすおおみかみ）
創建：1040（長久元）年 9 月 15 日

豊宇氣姫命（とようけひめのみこと）は「古事記」では伊弉冉尊（いざなみ）の尿から生まれた稚産霊（わくむすび）の子とし、天孫降臨の後、外宮の度相（わたらい）に鎮座したと記されている。神名の「ウケ」は食物のことで、食物・穀物を司る女神である。後に、他の食物神の大気都比売（おほげつひめ）・保食神（うけもち）などと同様に、稲荷神（倉稲魂命）（うかのみたま）と習合し、同一視されるようになった。
伊勢神宮外宮の社伝（「止由気宮儀式帳」）では、雄略天皇の夢枕に天照大神が現れ、「自分一人では食事が安らかにできないので、丹波国の比沼真奈井（ひぬまのまない）にいる御饌の神、等由気大神（とようけのおおかみ）を近くに呼び寄せなさい」と言われたので、丹波国から伊勢国の度会に遷宮させたとされている。即ち、元々は丹波の神ということになる。
天照大見神（あまてらすおおみかみ）は「伊邪那岐神」によって生み出され、「月読命」の兄神であり「須佐之男命」の兄神にあたる。天照大御神は太陽の神とされ、兄弟合わせて『三柱の貴子』とされている。 皇室の祖神（皇祖神）の一柱とも言われ、日本民族の総氏神と言われ、信仰対象・御祭神としては『伊勢神宮』が特に有名である。
小園神明社の御祭神は、豊宇氣姫命である。この地は三河国河内郷御園であり、伊勢神宮へ御供米を供する指定地である。1040年（長久元年）9月15日に豊宇氣姫命を祭った。1504年（永正元年）中島城主由良甚太郎が本殿を造営。また，徳川家康が漁猟の折に時々参拝していた地であり、1602（慶長7）年に神領拾石を寄付されている。
昔はこの辺りまで入江だったらしく、この地で御供米を船に積み、伊勢神宮まで送納したようである。小園神明社は浮島の宮といわれ、近隣諸国にその名高く、どんな洪水でも地内に浸水したことがなかったという。むかし、社内の竹で簾を造り、大神宮へ献じた。氏子並に近隣の人々の崇敬厚く、1919年（大正8）郷社に昇格する。
社殿を始め、樹齢600年余の御神木等が1940（昭和20）年の三河大地震および1959（昭和34）年の伊勢湾台風で壊滅的な被害を受け、再建は1980（昭和55）年に氏子崇敬者総意で再建着手し、1982（昭和57）年に完了した。昔、蛇柳と呼ばれる廻り28尺樹齢数百年の柳の巨木が立っていたという言い伝えがあり、再建の祭、朽ちることなく発掘され、これを御神木として祀っている。
小園池（御手洗い池）は、むかし大沼で、岡山村の北、鎧ヶ淵を経て海に通じたので、三河郷御園といって、近隣の御供米をこの地から舟に積んで伊勢神宮に納めた。また、この池は明治の初めころまで5～6町歩もあり、池の縁には、蛇柳、蛇松といわれる2本の大きな松があった。小園池は、河童が出るという噂があった。境内には1995（平成7）年8月15日に戦没者慰霊碑が建立されている。
「小園（御園）池の主の話」
小園には2つの民話が残っている。それも同じ題名の「小園（御園）池の主の話」であるが、内容は全く違っている。
（1）人や動物を襲う大蛇（小園池の主）を大男が退治して鎮魂する話である。小園神社の森やその周辺の大きな小園池が民話の舞台となっている。また、鎮魂のため、現在も行われている、長円寺山の「鍵万燈」と結び付けられている。
（2）小園池の主の鰌（どじょう）が老人に助けられて、恩返しをする話である。小園池、広田川および岩堀池（菱池）が舞台となっているが、池の埋め立てが話の発端である。小園池の埋め立ての時、近くの老人の家に、1人の侍が来て「小園池にいる鰌を広田川に移してほしい」と頼んだ。次の日、鰌を広田川に移すと、鰌は「この樽に酒と広田川の水」を半々に入れて売りなさい」と言った。するとその酒はとても売れ、老人の家は繁盛したという話である。

小園神明社の境内にある由緒には次のように記載されている。

・御由緒（表面）

御由緒
鎮座地　岡崎市中島町字小園二十二番地
御祭神　豊宇氣姫命
　当地は三河国河内郷御園にして、大神宮御厨の地なり。
長久元年（1040年）九月十五日　豊宇氣姫命を祭祀す。
永正元年（1504年）中島城主　由良甚次郎（いたじろう）本殿を造営、
尚徳川家康当地に漁猟の節しばしば参拝あり、
慶長七年（1602年）神領拾石を寄付せらる。
　御手洗池は昔大沼にして岡山村の北、鎧が淵を経て海に通じたりし故、
近村の御供米を此の地より船に積み海に出で伊勢神宮に送納したり、
此の池の縁に蛇柳と称する廻り一丈四尺の大木あり、
大蛇の住みたる池なりと云い伝う。
当社は又浮島の宮称し近隣諸国にその名高く如何なる洪水にも境内浸水
したることなかりしと云う。昔社内の竹を以て簾（すだれ）を造り大神宮へ
献じたること六ッ美村史にあり、氏子並に近隣の人々の崇敬厚く大正八年
郷社に昇格す。昭和二十年（1945年）三河大地震、
　昭和三十四年伊勢湾台風により社殿を始め樹齢六百余年の神木等壊滅的打撃を
受けたり。其の後社殿等の修理を重ね杉の木数百本を植樹し神苑の保全に
努めたるも地質の関係にて台風、強風により度々倒木するに至る。
昭和五十五年七月氏子崇敬者の総意により造営計画を進め、境内地の整備、
新構想による理想的な社殿及び付属建物の再建に着手、
昭和五十七年三月完工する。尚造営資金は氏子共有地売却金及び寄付金を
以て充てる。
小園神明社

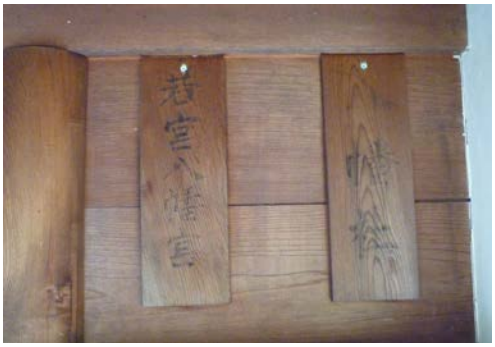
小園神明社由緒 20160519

・御由緒（裏面）

境内社
・若宮八幡宮　御祭神　仁徳天王
・琴毘羅社　御祭神　金山日子命
・水神社　御祭神　美都波賣命（みずはめのみこと）
・稲荷社　御祭神　宇氣保命（うけもちのかみ）
・天満社　御祭神　菅原道眞公
・御鍬社　御祭神　伊勢大神
・春日社　御祭神　天兒屋根命（あめのこやねのみこと）
・八幡社　御祭神　譽田別命（ほんだわけのみこと、応神天皇）
・愛宕社　御祭神　火産靈神（ほむすびのかみ、迦具土神）
　御祭神　齋火武主比命（いみほむすびのみこと）
・竈神社　御祭神　奥津日子神（おきつひこのかみ）
　御祭神　奥津日賣神（おきつひめのかみ）
・秋葉社　御祭神　迦具土命（かぐつちのみこと、秋葉大神）
再建時の棟札記
本殿　寛文六年（1666年）
拝殿　弘化三年（1851年）
造営総資金　壱億五百萬円
境内地面積　7127平方メートル
建物　本殿　7.33平方メートル
仝　社殿　86.13平方メートル
氏子戸数　145戸

建設委員長	榊原　禮三	氏子総代	高橋　良一
建設副委員長	鵜野徳太郎	仝	柵木　弘
仝	柵木　猛	仝	足立　光男
建設委員	石川　周一	仝	榊原　定男
仝	鈴木　秀一	参与	市川　清行
仝	鍋田　一夫	相談役	野澤　正雄
仝	石川　秋夫	仝	堀内　春治
仝	大竹　盟	仝	山下　登

宮司　都築　孟
設計監理　熱田神宮営繕課長　近藤　毅
施工者　株式会社　市川組代表取締役　市川　一兵
協力業者　末広工業株式会社代表取締役　杉山　亀治



小園神明社祭神 20160519

境内にある戦没者慰霊碑には次のように記されている。

・戦没者慰霊碑（表面）

戦後五十周年にあたり小園神明社の氏子総意により
戦没者の霊を追悼し平和への祈りをこめて
ここに記念碑を建立する
平成七年八月十五日

榊原	太郎吉	市川	與四郎
石川	仁一	榊原	勇
鶴田	粂一	早川	夕七（？）
熊谷	一雄	大竹	柳次
榊原	正八	榊原	十三
大竹	與三郎	竹田	勝己
野口	次男子	野口	一雄
斉藤	藤市	榊原	弘三
川口	繁太郎		

・戦没者慰霊碑（裏面）

記念碑建設委員会

委員長	柵木	猛	委員	榊原	多喜雄
福委員長	石川	松信	仝	足立	三郎
委員(会計)	高橋	健次	仝	山口	卓男
仝	柵木	弘	仝	新家	勝之助
仝	山下	登	仝	山本	三之助
仝	野口	健也	仝	斉藤	健
仝	野沢	正雄	仝	石川	秋夫
仝	大竹	桂	仝	大竹	盟
仝	鍋田	一夫			
仝	鵜野	米松			
仝	榊原	武雄			
仝	鵜野	徳次	宮司	都築	孟
仝	大竹	学	施工者	高橋	勝美

小園神社 20150729

小園神社 20150729

小園神社 御神体 20150729

小園神社 20150729

小園神社 20150729

小園池 20150729

小園池 20150729

小園池 2015072

社殿　大正15年

戦没者慰霊碑 20150729

本項は以下の資料を引用している。

[わたしたちのふるさと　六ッ南 114 選]

監修者　総代会長　平井　良美
　　社教委員長　近藤　武美
著者　　岡崎市立六ッ美南部小学校 6 年児童 114 名
　　（平成 25 年 3 月 19 日卒業）
編者　　岡崎市立六ッ美南部小学校 6 年担任
　　権田　康成、加納　隆、坂井　純、榊原　美佐子、山本　佳愛
発行日　2013（平成 25）年 3 月 1 日　初版発行
印刷所　ブラザー印刷株式会社
製本　　ブラザー印刷株式会社
発行　　岡崎市立六ッ美南部小学校